

2023 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [岐阜県立恵那高等学校] 担当教諭名 [夏目 佳代子] (英会話部 16名)

相手国・地域 [マダガスカル]

海外学校名 [Lycee d'Enseignement General Ambatolampy] 担当教諭名 [Calie Razafimanantsoa]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単元名	時間数
	部活動	アートマイルプロジェクト	70

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Eye ～the Earth You Experience～ 目 ～あなたが経験する世界～
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	現状を見て見ぬふりをするのはやめよう。私たちは自分の行動に責任を持ち、周りの人の意識を高めていく必要がある。例えば、購入するものが、環境と人間—生産者と消費者—にどんな影響を与えるかよく考えよう。誰もが質の高い生活を実現できるよう、互いに学び合い、行動を起こし、継続的に取りくんでいこう。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・日本や日本が抱える課題に対して、他国からの視点を知り、新たな視点で考えることができた。 ・Goal2, 12について理解を深め、特にフードロス問題や衣服ができるまでの過程で起こる人権や環境の問題から、自分の生活を省みて、課題解決に向けてできることからしていこうという思いをもった。 ・意見を交流して合意に導くことは難しいが、そこに価値があると感じる事ができた。 ・解決すべき課題に対して、言葉や文化が違う人たちとも、お互いを認め合いながら解決策を探し出せる、という思いをもつことができた。 ・世界のニュースに関心をもつようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手校のインターネット環境が十分に整っていないこともあり、Zoomで直接対話する機会がなかなかもてなかった。 ・テーマについて、お互いの国の現状を知り、意見の交流をすることはできたが、相手校の生徒ともっと議論を深められるとよかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に交流することで、イメージしていたことやインターネットで調べたこと以上に相手国のことを知り、共通点を見つけ、より身近に感じられるようになった。 ・発展途上の国という印象が強かったが、実際の交流を通して、日本が学ぶべきこともたくさんあることに気づき、互いの国のよいところを取り入れる大切さに気づいた。 ・相手国との違いが多くても、意見を出し合って対話をするすることで、よりよい考えにつながることに気づき、先入観にとらわれないことが大切だと考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手校の生徒から国の現状や思いを直接伝えてもらうことで、課題についてより当事者意識が生まれ、解決に向けて自分の生活や行動を変えていこうという思いをもつことにつながると感じた。 ・年間を通して一緒に協働学習に取り組むことで、途上国と先進国、というとらえ方ではなく一緒に考え、学ぶ仲間だという意識が生まれる。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	6月 ～ 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介を作成する。 ・Zoom meetingで自己紹介、お互いについて質問し合う。 ・マダガスカルについて調べ学習を行い、興味をもったことについてプレゼンテーションを作成する。 ・SDGsについて学習する。 ・Goal12について学習する。 (プラスチックごみの現状、衣類の生産過程における人権や環境問題) ・Goal2について学習する。 (フードロスの現状) ・なごや地球ひろば訪問 (SDGsについて理解を深める。/マダガスカルでの海外協力隊体験談を聞く。) ・Goal12、2について学んだことをプレゼンテーションにまとめる。 ・学校祭でマダガスカルとアートマイルについて展示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックのリサイクルや衣服の生産過程の現状を知り、「自分たちが知らないことがこんなにあることに気づいた。」と多くの生徒が話していた。 ・日本では、思っている以上に廃棄が多いことやリサイクルが十分にできていないことに気づき、自分の生活を振り返ることができた。また、「リサイクル＝環境によい」という考え方に対して、本当にそうだろうかという課題意識をもった。 ・テーマ学習を通して気になったことについて、生徒が自分からさらに調べる姿があった。 	部活動30
共有 相手と意見交換	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・Goal12、2について学んだことをフォーラムで共有する。 ・マダガスカルの現状や課題、人々の考え方知り、日本とマダガスカルとの共通点や相違点について話し合い、考えを深める。 ・日本、マダガスカル、世界が抱える課題について、解決策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マダガスカルの現状や生活についての疑問が出てきて、相手校の生徒に質問することができた。返答から、自分たちの生活を振り返るとともに、マダガスカルの人々の生活や価値観から学ぶことができた。 ・マダガスカルでの衣服に関する現状を知り、リサイクルや寄付など、自分たちが相手のために、と欲していたことが、必ずしも必要な人に届いていないこと、別の課題を生み出していることに気づいた。 ・解決すべき課題は大きいですが、国や企業だけでなく、自分たちができることがあるという思いをもった。 	部活動7

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
融合 メッセージ作成	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな未来をつくっていききたいか、望む未来をつくるために自分たちにできることは何か考え、フォーラムで意見交流する。 ・壁画に込めるメッセージについて意見交流する。 ・メッセージが伝わるようなデザイン案を考え、意見交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活内で意見をまとめること、マダガスカルの子生の意見と合わせて1つのメッセージを作ることに難しさを感じながらも、お互いの意見を取り入れたメッセージを考えることができた。 ・絵のデザイン交流を通して、マダガスカルと日本の文化や生活の違いを感じられ、お互いの理解も深まった。 ・壁画を見た人にメッセージが伝わるようなデザイン案、両校の子生の考えを取り入れたデザイン案を練ることができた。 	部活動9
創造 壁画制作	12月 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・壁画を制作する。 ・メッセージカードを作成する。 ・これまでの活動を振り返る。 ・相手校の壁画制作の様子をフォーラムを通して知る。 ・相手校の子生へメッセージを送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マダガスカルの子生と一緒に考えたメッセージを絵に表すことで、メッセージに込めた思いをより強く感じられるようになった。 ・2校で1つの絵を完成させることで、一緒によりよい世界をつくってほしいという思いをもつことができた。 	部活動15
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・マダガスカルについてさらに調べ、マップを作成する。 ・壁画の鑑賞をする。 ・学習を振り返り、自己評価を行う。 ・相手校の子生へメッセージを送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マダガスカルについて、さらに知りたいという思いが生まれた。 ・マダガスカルの子生と一緒に壁画を制作できた喜びや達成感を感じた。 ・プロジェクトを通して学んだことを、今後に生かしていきたいという思いをもった。 	部活動9

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	5	マダガスカルとの文化との共通点や相違点を多く見つけ、さらに知りたいという思いをもった。壁画制作後、マダガスカルについてさらに調べてマップを作るという活動を、生徒が主体的に行った。
主体的に考え行動する力	4	プロジェクト開始当時よりも、自分の考えを積極的に出せるようになった生徒が増えた。フードロスやゴミ問題に対して、自分ができることを考え、実行することができた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	洋服を寄付することなど、よいと思っていたことに対して、マダガスカルの実情を知り、多角的に考えることができた。仲間の考えやマダガスカルの子生の考えを聞き、自分の見方や考えを広げることができた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	自分たちの考えを伝えるとともに、マダガスカルの子生の考えを尊重しながら、メッセージやデザイン案を考えることができた。一枚の壁画を一緒に完成させる、という思いをもって制作できた。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	何度も意見交流をして、テーマ学習で学んだことや望む未来の姿をメッセージに表すことができた。壁画を見た人にメッセージが伝わるようなデザイン案、両校の子生の考えを取り入れたデザイン案を練ることができた。メッセージに込めた思いを壁画にしっかりと表せた。